

札幌 市民防災

第 27 号

令和 4 年 10 月 31 日
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

令和 4 年度

札幌市民防災団体連合会総会(書面決議)・

札幌市総合防災訓練(白石区東部再生プラザ北側
敷地内開催)中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症により、未だ終息する事なく感染拡大が心配されております。今年度の札幌市総合防災訓練も 9 月 1 日に予定し準備を進めて参りましたが、中止せざるをえませんでした。連合会も市全体の町内会で地域の特性をいかした活動を予定していましたが、コロナ感染症のため計画通り実行されていないのが現状です。

総会も例年通り準備を進めて参りましたが、コロナ感染症が落ちつくまで何らかの対応を考えながら会員の皆様とお逢いする機会が出来る日々を願っております。

書面決議とさせて頂いておりますが、何かご都合の点ありましたら会長までご一報頂けたらと思います。

日々寒さも一段ときびしく成りますのでご健康には十分お気をつけて下さい。



「大切にしたい防災」

札幌市長 秋元克広

札幌市民防災団体連合会の皆様におかれましては、日ごろから札幌市の防災行政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

札幌市では、過去の災害の教訓を踏まえた災害対策、防災関係機関との連携、地域住民による防災活動など総合的かつ実践的な災害対応訓練として、例年 9 月に『札幌市総合防災訓練』を実施しております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う業務継続の観点などから、昨年引き続き大規模な訓練を中止せざるを得ないと判断いたしました。

このような厳しい状況にあっても、国内では、自然災害による被害が頻発しており、8月の大雨、9月の台風第15号では、日本各地で多くの被害が発生しました。札幌市でも、いつ発生してもおかしくない自然災害の被害を最小限にするため、一層気を引き締めて、防災対策の充実を図ってまいりたいと考えております。

日ごろより、皆さまがご尽力されている自主防災活動は非常に重要な「共助」の取組であり、災害から市民の皆さまの命を守る上で欠かせない役割です。今後とも地域に根差したまちづくりの中で、より一層の推進をお願いいたします。

結びになりますが、札幌市民防災団体連合会の、今後、益々の御発展と会員皆様の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げますとともに、札幌市の防災行政に特段の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



地区防災計画で「安心なまちづくり」

札幌市民防災団体連合会 会長 田畑 隆二

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、会員の皆様におかれましても、防災活動を含め各地域活動が制限され厳しい年であると思えます。

9月に札幌市防災訓練（白石区で開催）も中止となり大変に残念に思います。しかしながら、8月にご案内させて頂きました「札幌市防災教育セミナー」「地区防災計画シンポジウム」には、多くの会員の皆様にご参加頂き有難うございました。

今年も、台風による風水害や地震による被害が多く、日頃の備えの大切さを痛感致します。会員皆様の住まわれている地域に必要な防災活動は何かを把握しながら、近年多発する自然災害への対応や備え等、地域での防災活動の持続性を高める計画が一層高まっているところです。

まだまだ続くと思われコロナ禍の中で、地域活動に制限があると思われませんが、会員皆様の地域での活動が「安全・安心まちづくり」に繋がると思っております。

当会も、札幌市危機管理局との連携を更に深めながら、札幌市の防災情報の提供や、まだある活動制限の中で、広報部長の取材による各地域の防災活動情報を広報紙「市民防災」の発行で、地域防災活動・計画の発展を進めていきたいと思っております。

今年度も1月に「札幌市防災表彰・自主防災講演会」が実施されると思えますが、改めてご案内致します。会員皆様におかれましても、新型コロナウイルス感染拡大に十分ご注意をされ地域活動を進めて頂ければと思えます。



「防災協働社会を目指して」

札幌市危機管理局危機管理監 櫻井 英文

令和4年4月に、札幌市危機管理局危機管理監に就任しました櫻井英文と申します。

札幌市民防災団体連合会の皆様には、日ごろから地域の自主的な防災活動に先進的に取り組まれておられるとともに、防災の取組の全市への普及に御尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる場面で甚大な影響が出ておりますが、このような厳しい状況にあっても、札幌市としましては、できる限り防災の取組を進めております。

本年4月には、災害の備えをまとめた「さっぽろ防災ハンドブック」を全面リニューアルし、各区役所などで配布を開始しました。また、小中学生に対する防災教育の推進のため、教職員を対象としたセミナーを開催したほか、避難所運営研修の実施、さらには、各区において地域の皆さまと協力して様々な防災訓練を実施しております。

今後も、市民、地域、企業など様々な主体と行政が連携・協力して支えあう防災協働社会の実現を目指し、尽力してまいります。

結びになりますが、皆様の今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。



さっぽろ防災ハンドブック
配布場所：札幌市役所、各区役所

令和4年度 札幌市防災教育セミナー

講演：「いのちでんでんこー当時の中学生から見た防災教育の必要性ー」

講師：株式会社8kurasu 防災教育推進担当

元・いのちをつなぐ未来館 語り部 菊池 のどか氏



8月17日に札幌市生涯学習センターちえりあで開催された札幌市防災教育セミナーを聴講してきました。講師である菊池のどか氏は、当時中学校3年生だった2011年3月に東日本大震災に遭遇し、実際に津波からの避難を経験された方です。自らの被災経験や防災学習の体験について伺える貴重な機会でしたので、多くの防災教育関係者が参加していました。また、多くの参加者のから「防災教育の大切さを学んだ」「参加して良かった」との声がありました。

令和4年度中央区防災訓練実施について

中央区役所市民部総務企画課地域安全担当係長 小林 孝行

9月5日(月)13時30分から、中央区ゲートボール場（中央区南23条西10丁目）で「令和4年度中央区防災訓練」が行われ、地域住民や防災関係機関、協力企業などから約100人が参加しました。

この訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2～3年度は実施を見合わせていましたが、実施内容を見直すとともに参加人数も制限し、3年ぶりの開催となりました。

中川雅己（なかがわ・まさき）中央区長による開会あいさつの後、参加者は2班に分かれ、断水時に水道局から派遣される給水車よりビニール製の給水袋に6ℓの水を入れリュックのように背負って運ぶ「応急給水訓練」や、避難所等に備え付けられている災害用発電機に燃料を入れて実際に作動させる「災害用発電機動作訓練」、煙が充満したテントの中を通り抜け火災を疑似体験する「煙道訓練」に参加しました。

また、応急救護施設として使えるようにと札幌市中央区災害防止協会から区に昨年寄付されたエアテントを、協力企業の株式会社ムラカミが組み立てる様子を見学しました。

さらに、参加者は少人数に分かれて、協力企業などによる展示コーナーを見て回りました。展示コーナーは、札幌市中央消防団によるAED（自動体外式除細動器）と防災用品、協力企業の北海道コカ・コーラボトリング株式会社による災害対応自動販売機、株式会社ホンダ四輪販売北海道及び札幌トヨタ自動車株式会社による電源供給自動車、消防車や警察の特殊車両の展示があり、参加者は質問を交えながら、興味深そうに説明を聞いていました。

最後に、中央区連合町内会連絡協議会の土井清純（どい・きよすみ）会長が「今日の経験を自分の地区に持ち帰り、災害時を想定しながら準備を進めよう」と参加者に呼びかけ、訓練を締めくくりました。



令和4年度西区防災訓練（避難所開設訓練）

令和4年10月3日(月)、7日(金)

西区役所市民部総務企画課地域安全担当係長 久我 智哉

令和4年度の西区防災訓練は、地域住民が避難所の機能や設備を把握し、開設の手順を実践的に体験することによって地域全体の防災意識の向上を図ることを目的として、10月3日(月)14時半から発寒西小学校（西区発寒5条7丁目）で、また、10月7日(金)14時半からは発寒小学校（西区発寒10条4丁目）と2地区で避難所開設訓練を実施し、それぞれの訓練には地域住民や教職員、西区役所避難所班職員らが参加し、合計で約90人が参加しました。



感染症室の設営



避難所の説明

（公財）札幌市防災協会の講師から避難所開設の流れなどについて説明を受けたのち、実際に小学校内をまわって、災害時にも給水できる受水槽や備蓄庫を確認。災害時に自分たちが使うことを想定し、備蓄物資の使用法や保管場所について熱心に質問をする参加者の姿も見られました。

その後、石狩中部を震源とする最大震度7の地震が発生し、最初の避難者や西区職員が避難所へ集まりはじめたという想定で模擬訓練を開始。参加者は3つのグループに分かれ、体育館に避難者の滞在スペースを作ったり、新型コロナウイルス感染症対策として人と人の距離を確保した受付を設営したりしました。また、発熱者や濃厚接触者などを隔離するための感染症室の設営では段ボールベッドや感染対策用のパーテーションなどの組み立てなどを行いました。

最後に区職員が受付役、地域住民が避難者役となって、実際に避難してきた際の受付の手順や誘導などを行う受付訓練を実施しました。

拠点給水施設(緊急貯水槽)の現地説明会の実施について

水道局給水部南部配水管理課 事業担当係長 山下 拓矢

水道局では、地震などの災害発生時の飲料水を確保するため、拠点給水施設の整備を進めており、令和4年3月末現在では、市内42か所に緊急貯水槽を設けております。また、都心部には災害時に給水できる緊急時給水管路を布設しております。

令和4年10月3日(月)、月寒公園(豊平区美園10条8丁目)で開催された「学ぼう!遊ぼう!月寒公園と防災」において緊急貯水槽の説明会を開催し、地域住民や町内会役員など約50人に参加いただきました。月寒公園の緊急貯水槽は100m³の飲料水を確保しており、市民約1万1千人に必要最低限の飲料水(1人当たり1日3リットルを3日間)を給水することができます。緊急貯水槽の見学会や応急給水作業の体験会を定期的の実施することにより、市民と連携した応急給水活動ができる体制づくりを進めていきます。



札幌南区防火委員会×Coミドリ 「イザ!カエルキャラバン!」を南区で初開催

防火・防災意識があっても、なかなか防火・防災訓練に参加できない若いファミリーが楽しみながら防火・防災を学べるイベント「イザ!カエルキャラバン!」が令和4年10月15日(土)、南区の「子どもの体験活動の場Coミドリ」で開催されました。

このイベントは、札幌南区防火委員会(会長 石川 誓志)とCoミドリ(統括責任者 高橋 嘉博)が共催で企画したもので、南区の消防団員、少年消防クラブ員、東海大学 札幌ボランティアプロジェクトのメンバーなどが防火・防災プログラムの運営に協力しました。

同イベントは、対決バケツリレーを皮切りに、水消火器での的当てゲーム、毛布で担架タイムトライアル、AR煙体験、サラダ油で簡単ランタンづくりなどの防火・防災プログラムに参加するごとに、ポイントを得られるもので、最後には、おもちゃオークションも行われて盛り上がっていました。

参加した小学校4年生の男の子は「AR煙体験がとても参考になった。本物の煙と同じくらいの視界の悪さや勢いを体験することができた。友達にも煙の怖さを伝えたい。」

また、小学校3年生の娘と参加した30代の女性は「コロナ禍でも災害は待ってくれない。このイベントで娘と一緒に防火・防災の知識を得ることができてよかったです。」と話していました。



編 集 後 記

今年も新型コロナウイルス感染症により会員各位様におかれましては行事も計画通りにはいかないと思いますが各区におきまして徐々に室内より外での活動を中心に行っております。私も各区の情報を得ながら、取材に現地へ行き活動の場をしっかりと学んで来てます。会員の皆様も元気でコロナに負けずいざという時にそなえ参加者が一丸と成って取り組んでおり、機会を見て体験した事の発表の場があればと考えております。

寒さも一段ときびしく成ります。元気で明るい年に成るよう皆さんがんばりましょう。

副会長 広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583番

印刷所 北晃社 斎加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011(631)1271